



特定非営利活動法人
都岐沙羅パートナーズセンター
理事・事務局長 齋藤 主税 さん



このたびの最優秀館受賞、本当におめでとうございます！
微々たるものですが、齋川公民館の活動をお手伝いした1人として、本当にうれしく思っています。

文部科学省の中央教育審議会が平成30年12月に取りまとめた答申「人口減少時代の新しい地域づくりに向けた社会教育の振興方策について」には、こんな内容が示されています。

- 地域における社会教育の意義と果たすべき役割は、社会教育を基盤とした、人づくり・つながりづくり・地域づくりである。
- 公民館は、地域の学習拠点としての役割に加え、「地域コミュニティの維持と持続的な発展を推進するセンター的役割・地域の防災拠点」という役割も、今後は期待される。

齋川地区は、この答申が出る前の平成29年度から「きらり齋川笑アップ塾」をスタートさせ、前述の内容を地道に実践していました。真摯に地域と向き合い、自分たちで考え、行動していたことが、文科省で考える方向性と完全に合致していた。地域の方々の慧眼には、ただただ感服するばかりです。

こうした先見の明が、今回の受賞につながったのだと思います。これからも地道に、着実に前に進んでいただくことを大いに期待しています。



5_若者との意見交換会の様子。多くの方が関心をもって参加してくれました
6_若者を講師にしたLINE講習会。齋川公民館ではLINE公式アカウントを取得し、地域の情報などを伝えています

アンケート報告会で話題に上がったことの1つに、「こういつた場に若い世代が参加していない」という意見がありました。これからの齋川地区の地域づくりを考え、若い世代や中堅世代の声を丁寧（ていねい）に聞き、地域づくりに参加してもらうことはとても重要です。これまで耳を傾ける機会を設けてこなかったことから、齋藤先生に若者だけの意見交換会を開催してもらい、思いや考えを引き出してもらいました。

参加した若者たちは、普段集まる場所や機会がない、どう手伝えれば良いかわからない、年長者に気を遣って意見を言えないなど、普段は聞けない意見を話してくれました。また、中堅世代からは、地域を担っていく気持ちはあるが、地域行事や役割が多く負担が大きいです、という声がありました。後日齋藤先生から聞かせてもらったとき、われわれはもっと若者たちの声に耳を傾け、話し合うべきだったと痛感しました。

若者たちは、生まれ育った齋川地区を大事に思ってくれていますし、中堅世代も、地域を担っている思いはあるのだとわかりました。しかし、今のままでは引き受けてもらえない。これまでのやり方を変え、なるべく負担を減らし、若者が参加しやすい、活躍しやすい場を作り、安心して引き継ぐことのできる体制づくりが必要であるとわかりました。

若者たちの声に耳を傾け
話し合うべきだと痛感

できそうなことから少しずつ始めていく

齋川地区の課題を話し合うなかで、やはり地域の方だけで解決するのは難しいものもありますし、すぐに解決できないものもあります。しかし、できそうなことから少しずつ始めていくことが大事です。やってみると意外とうまくいくこともありますし、うまくいかなければ違うやり方を考える。続けていくことで、モチベーションの維持にもなります。

先日の笑アップ塾では「実証実験プロジェクト企画会議」を開催しました。これまで把握してきた課題やニーズから、齋川地区が「こうなったらいい」と描いた姿を実現するため、まちづくり交付金を活用して取り組んでいきます。

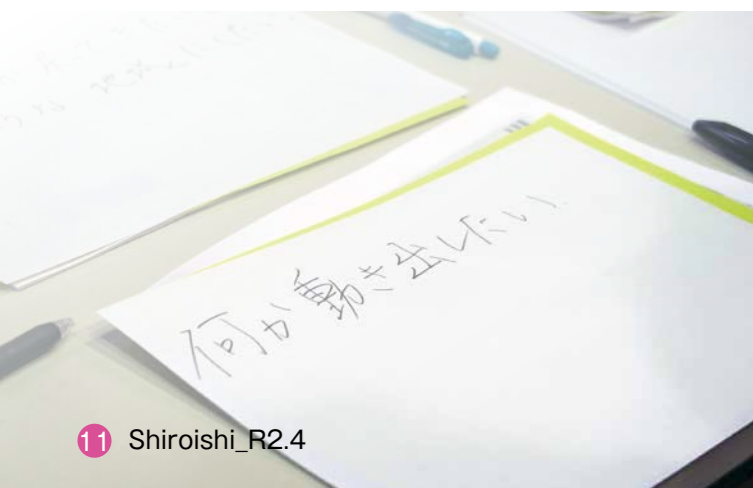


齋川まちづくり協議会長
成澤 一男 さん

齋藤先生に紹介していただいた全国の事例を見ても、まちづくりがうまくいくには、少なくとも10年はかかるものだと思います。先が見えないので手探りではありますが、長い目で地域のことを考え、次の世代にどうバトンをつなぐかも考えなければなりません。

今年市第6次総合計画を策定するため、齋川地区のこれから10年の目標を立てることになりました。10年後の齋川地区をどんな地域にしたいのか。地域の皆さんと夢を語りながら、話し合っ決めていきたいと思っています。

▼笑アップ塾で紙に書き出された参加者の声。
齋川地区のこれからの取り組みに期待される



地域行事の棚卸し



地域の行事は団体や自治会が中心に毎年行っていますが、それぞれで同じような活動を行っています。また、1人でいくつも役員を兼ねる方もおり、大変な思いをしながら運営していることがわかりました。これでは、次に引き受ける人も大変です。そこで、地域の行事を棚卸しし、まとめられるものは一緒にやろうと提案しました。昨年は敬老会と作品展を同じ会場で開催してみたところ、これが大変好評でした。敬老会に集まる多くの人が作品を見ますし、会場も賑やかになり、相乗効果が得られたと思います。

新しい取り組みへの挑戦



アンケート調査で、齋川地区では60歳までの方でスマートフォンも活用している方が多く、インターネットも活用していることがわかりました。そこで、地域のお知らせや災害時の情報共有に便利なSNSの活用を促進しようと「LINE講習会」を企業の協力を得て行いました。地域の若者に講師になってもらい、世代間交流の場にもなりました。

昨年8月には、お年寄りの買い物や通院の移動手段をテーマにした「地域円卓会議」を開催しました。行政や自治会、地域団体などが集まり、それぞれの取り組みや課題を共有し話し合いました。

7_地域円卓会議の様子。行政と地域それぞれの取り組みを共有し、同じ目線に立って話し合いました 8_一人一人が身の回りの悩みを話し共有しました